

平成18年4月14日

石巻市長
土井喜美夫様

提 案 書

北上地域まちづくり委員会

1 防災・安全対策について

(1) 地域における防災体制の強化

- ・ 災害時に対処するためには、日頃の準備や防災マップ等による避難場所の確認など家庭内での対策のほか、非常時の隣近所への声かけなど地域住民の助け合い精神が重要であり、自主防災組織の育成を通じて災害に対する住民意識の向上に努めていただきたい。
- ・ 災害発生時のボランティア受け入れを想定し、受け入れや指導にあたるボランティアコーディネーターの育成に努めていただきたい。

(2) 沿岸部における津波対策の強化

- ・ 学校・保育所等公共施設の安全確保と避難場所等の確保を図るとともに、避難訓練の実施等により、非常時の対応に万全を期していただきたい。

2 生活環境の整備について

(1) 基幹道路網の整備（県事業分）

- ・ 国道398号新北上大橋～月浜の兼用堤区間は狭隘で車の擦れ違いが危険な場合もあり、拡幅整備の早期完成を要望していただきたい。
- ・ 国道398号大指～小滝間は相川地区児童生徒の通学路にもなっているが、歩道未設置区間が残されており歩行者にとって危険なため、歩道設置を要望していただきたい。
- ・ 主要地方道北上津山線の女川地区内の改良工事推進について要望していただきたい。

(2) 公園等の整備について

- ・ 北上地区には身近な公園が少ないため、きたかみさくら公園などに小規模な遊具を設置し、子どもからお年寄りまでが集える公園の整備に努めていただきたい。

3 産業の振興について

(1) 農林水産業の後継者対策

- ・ 従事者の高齢化が進み、その一方で家業を継がない若者が増えているため、後継者不足が加速している。収入面や労働条件面など様々な要因が関連しているためと思われるが、若い人たちを地域に残すには、収入の確保策はもちろんのこと、労働環境の整備に努めていただきたい。

(2) 地域資源の活用

- ・ 北上川下流域のヨシ原が全国的に有名になってきており、ヨシ原を題材とした写真セミナーの開催やヨシ紙の作成などが行われているが、このほかにも北上地域には、神割崎や釣石神社などの観光資源や農林水産物などが豊富にあり、これらを活用した地域産業の確立を図ることで、雇用創出や地域発展が図られるような方策を講じていただきたい。

4 健康・福祉施策の充実について

(1) 健康づくりの推進

- ・ 子どもの頃から正しい食習慣の基礎をつくり、食を通じた健康づくりの推進が重要になっている。子どもやお母さん・おばあさんなどを対象に、家庭、地域、学校、保育所のネットワークで料理教室や講演会を開催するなどして、豊かな人間性を育むとともに食生活の改善を支援できるよう「食育」を推進していただきたい。

(2) 保険医療制度の拡充

- ・ 不妊治療については、県が特定不妊治療費助成事業を実施しており、指定する医療機関において行われた不妊治療について、治療に要した費用の一部（1年間に最高10万円、最長2年間で20万円）を助成しているが、登米市では市と県からの助成で1年間に20万円の助成を受けられる制度があり、石巻市でもこのような制度の実施と気軽に相談できる窓口の設置をお願いしたい。また、不妊治療には高額な費用がかかるのが現状であり、少子化対策のためにも不妊治療への健康保険適用を国に対して強く働きかけていただきたい。

(3) 障害者と家族への支援

- ・ 障害者をかかえて悩んでいる親が気軽に相談できる場を設置していただきたい。対象者にとっては深刻な問題であり、行政の支援が不可欠なため対策をお願いしたい。

(4) 母子福祉の充実

- ・ 親が仕事や病気等で一緒に過ごすことができない場合には、小学校低学年の児童が放課後を安全に過ごせるよう学童保育（放課後児童クラブ）を実施していただきたい。
- ・ 乳幼児を抱えて就業するにあたり、親元の近くに住宅を借り、安心して生活したいとの声を多く聞くため、市営住宅の増設をお願いしたい。

(5) 高齢者福祉の充実

- ・ 本地区唯一の公共交通機関であるバス路線が廃止された場合、自家用車を利用できない高齢者は、病院に通う手段としてタクシーを利用せざるを得ない状況となり、年金生活の高齢者にとって非常に大きな負担となる。総合交通計画の策定にあたり、高齢者や障害者が気軽に利用できるような福祉バスを運行するなど、地域性を踏まえた交通対策を実施していただきたい。

5 教育環境の整備について

(1) 教育施設の安全性確保

- ・ 相川中学校については、生徒数の減少や校舎の老朽化などにより、北上中学校との統合について旧北上町時代から行政と地域住民の協議・意見交換が行われてきたが、結論を出すまでには至っていない。しかし、その一方で生徒たちが日々危険な教育環境で学んでいることも事実なので、修繕などの対応を検討していただきたい。

様式3 個別事業に対する提案

1 提案の課題

河北消防署北上出張所庁舎整備事業

2 提案の理由・背景

(要望する理由)

現在の施設は、昭和47年に建築されてから33年が経過しており、事務室内で雨漏りが発生するなど建物の老朽化が著しい状況にある。

また、前面の国道398号には歩道が整備されておらず、通行車両及び歩行者にとって非常に危険な箇所となっており、歩道整備を要望している。そのため区内の火災・救急出動への対応向上や、今後高い確率で発生が予想される宮城県沖地震等大規模災害へ対応し得る防災拠点として移転整備が必要である。

3 提案内容

- ・ 敷地面積 $A=700\text{ m}^2$ (市有地)
- ・ 本体 鉄骨2階建て $A=530\text{ m}^2$
- ・ 備品購入費 一式
- ・ 調査設計費 一式

4 考えられる効果

- ・ 防災・救急体制の向上
- ・ 国道398号拡幅・歩道設置の推進による交通安全性の向上

5 国・県との関連

(要望の必要性の有無)

国道398号歩道設置について県に要望中

6 緊急性(該当する箇所に○)

短期(1年 から 3年) ○ ・ 中期(4年 から 7年) ・ 長期(8年 から 10年)
その他()

7 具体的な方策

県が国道398号歩道整備工事を施工する際に北上総合支所新庁舎敷地内に移転する。

様式3 個別事業に対する提案

1 提案の課題

仮称) 北上防災コミュニティセンター建設事業

2 提案の理由・背景

(要望する理由)

北上町十三浜地区(海岸部)は、通過する路線が国道398号のみであり、地震・津波等で同路線が寸断された場合、十三浜地区が孤立する危険性が高いため、防災コミュニティセンターを建設し、地区住民の非常災害時の避難場所、被災者の収容施設、災害時の資機材の備蓄、同地区自主防災会活動等の防災拠点とする。

3 提案内容

- ・ 本体工事 一式
- ・ 附帯工事 一式
- ・ 備品購入費 一式
- ・ 調査設計費 一式

4 考えられる効果

- ・ 災害時の避難場所、被災者の収容施設等の確保による地域防災の向上
- ・ 防災会議、防災コミュニティの場として利用することによる安心・安全なまちづくりに寄与

5 国・県との関連

(要望の必要性の有無)

特になし

6 緊急性(該当する箇所に○)

短期(1年 から 3年) ・ 中期(4年 から 7年) ・ 長期(8年 から10年)
その他()

7 具体的な方策

市の防災計画等へ整備事業として盛り込む。

様式3 個別事業に対する提案

1 提案の課題

月浜第一水門周辺環境整備事業

2 提案の理由・背景

(要望する理由)

月浜第一水門は、昭和3年の完成以来地域の安全を支え、地域の人々に愛されてきた重要な施設であり、国土交通省では旧水門を歴史的建造物として保存する計画で基本計画を作成している。その整備と一体的に公園整備を行う。

3 提案内容

- ・ 遊歩道整備
- ・ 水路整備
- ・ 休憩施設整備

4 考えられる効果

- ・ 水辺プラザ整備事業で整備した水辺センター・さくら公園に加え、にぎわいのある水辺を創出することにより、北上川下流域に連続した交流拠点が形成される。

5 国・県との関連

(要望の必要性の有無)

河川管理者である国及び県と事業の内容と分担について協議が必要

6 緊急性(該当する箇所に○)

短期(1年 から 3年) ・ ○中期(4年 から 7年) ・ 長期(8年 から10年)
その他()

7 具体的な方策

国及び県と協力して整備事業を実施する。